

ONE  
CLIP



# USAMI SOCCER CLINIC

実施報告書

# 「ストライカーエ育成プログラム」

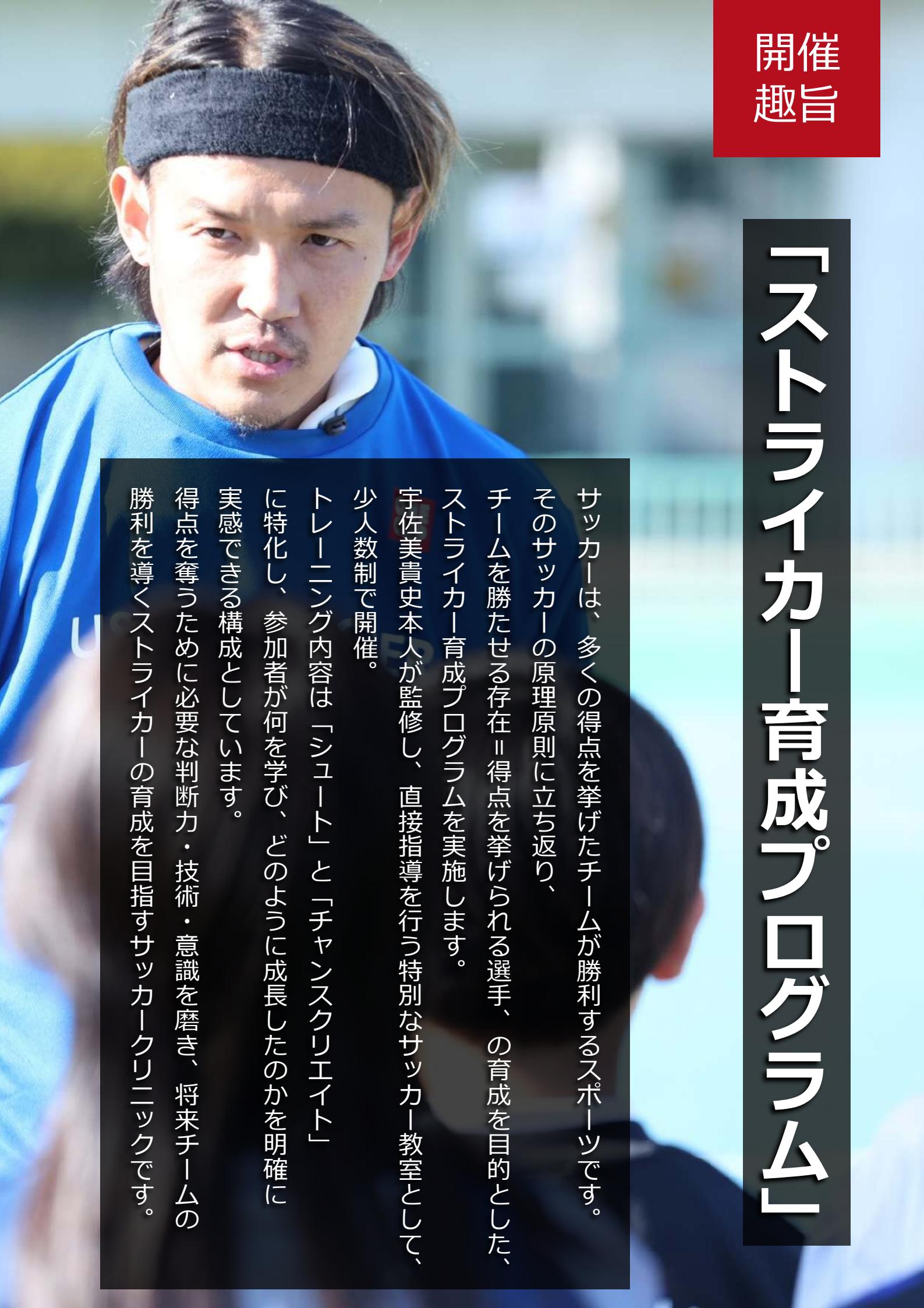
サッカーは、多くの得点を挙げたチームが勝利するスポーツです。そのサッカーの原理原則に立ち返り、

チームを勝たせる存在＝得点を挙げられる選手、の育成を目的とした、ストライカーエ育成プログラムを実施します。

宇佐美貴史本人が監修し、直接指導を行う特別なサッカー教室として、少人数制で開催。

トレーニング内容は「シュート」と「チャンスクリエイト」に特化し、参加者が何を学び、どのように成長したのかを明確に実感できる構成としています。

得点を奪うために必要な判断力・技術・意識を磨き、将来チームの勝利を導くストライカーエの育成を目指すサッカークリニックです。





- 主 催 : ONE CLIP 株式会社
- 後 援 : 吹田市・吹田市教育委員会
- 協 力 : ガンバ大阪
- 発起人 : 宇佐美貴史 (ガンバ大阪)
- ゲスト : 田中美南 (ユタ・ロイヤルズFC / サッカー女子日本代表)
- 対 象 : 第1部 U12 (小学校4~6年生) 満定員  
第2部 U12 (小学校4~6年生) 満定員
- 会 場 : 吹田市立総合運動場
- 日 程 : 2025年12月28日(日)
- 内 容 : 各部募集人数を20名とした、少人数のサッカー教室。  
ストライカーとしてのスキル向上のため直接指導を行う。  
トレーニング後は質疑応答やサイン、写真会も実施。

# ゲスト 紹介

## サッカー女子日本代表 エースストライカー

# 田中 美南

自分も宇佐美選手と同じ考え方で、サッカーはやつぱり、点を取ることが一番大事だと思っています。そのためには何をするのかを、常に考えながらプレーしています。今回は、自分自身も子どもたちと一緒に学ぶつもりで参加し、その中で自分が世界を相手に戦ってきた経験を、少しでも子どもたちに伝えられたら嬉しいです。レベルの高い子どもたちが集まつていて、本当にこの中からプロが出てきそうな雰囲気があります。将来がとても楽しみです。



# 開会式



写真：開会式にて各コーチから参加者へメッセージが送られる

イベントに先立ち、開催趣旨や協賛企業の皆さまを紹介させていただきました。

トレーニングは1枠定員20名とし、対象をU12（小学4～6年生）に限定、2部制で募集しました。募集後すぐに満定員となり、全国から参加者が集まりました。

## 「オフェンス能力向上プログラム」

より実りある指導をするため、特別ゲストとして現サッカー女子日本代表の田中美南を迎える、宇佐美と共に子どもたちへ指導をしてもらいました。

開会式では、宇佐美から「今日は、点を取ることだけを意識して練習してもらいます。大事なポイントをいくつか伝えるので、しっかり聞いて、トライしてみてください。僕は、みんながいつかプロになると本気で信じて教えます。



写真：田中も参加者へエールを送る

## 宇佐美が直接指導

宇佐美本人が自身の豊富な経験

をもとに考案したストライカー能力向上プログラム。特にこだわる「強いシュートの打ち方」と「正確なコースの狙い方」、そして「チャンスクリエイト」を彼自身が考案した独自の理論に基づき参加してくれた子どもたちへ直接指導しました。代表経験のあるコーチ達からの指導は子どもたちにとってとても大きな刺激となりました。

だから、みんなもそのつもりで、全力でプレーしてほしいと思いました。」とメッセージを送りました。



## W-UP / アイスブレイク



### 心と体をほぐし練習に備える

アップでは、寒さで固くなっていた体と、緊張している子どもたちの心をほぐすため、

プロ選手も一緒になって体を動かし、笑い合うことで、心も体も温めました。



## 宇佐美が考える「強いシューートの打ち方」とは

今回のトレーニングでは、最初に強いシューートの打ち方についての指導を行いました。宇佐美は、日頃からガンバ大阪の選手たちにシューート指導を行つており、独自の理論をもとに、将来プロを目指す子どもたちへ3つの重要なポイントを伝えました。

1つ目は「足のどこにボールを当てるのか」

実際に子どもたちの足に触れながら、最も硬い骨の部分でボールを捉えることを指導。金属バットとプラスチックバットを用いた例えを使い、違いを分かりやすく、理論的に説明しました。

2つ目は「体の使い方」

体を大きく使いながらも、インパクトの瞬間には畳むように使うことの重要性を、実際のデモンストレーションを交えて指導しました。

3つ目は「軸足の置き方」

どの位置に軸足を置き、どのように踏み込むのかなど、これまで子どもたちがあまり意識してこなかつた細かなポイントまで丁寧に指導しました。

当日は、継続して参加してくれている子どもたちの姿も見られ、宇佐美が驚くほどシューートの威力が向上しており、本イベントの継続的な取り組みの成果を実感できる瞬間となりました。



写真：宇佐美自らパス出しを行い、近くでシューートをチェック



ポイントは3つ、  
シューートはそれで強くなる。

写真：足のどこで蹴るのか、1人づつ丁寧に触って指導するコーチ陣

## なぜ強いシュートでも 「コースを狙えるのか

今開催にあたっては、事前に参加者へ「宇佐美から学びたいこと」についてアンケートを実施しました。その中で最も多く寄せられたのが、「シュートコースの狙い方」に関する質問でした。

「強いシュートはコースを狙いにいく」という悩みは、子どもたちに共通する認識でもあります。

一方で、宇佐美や田中は、強いシュートであっても正確にコースを狙っています。その違いはどこにあるのか、今回は、その「秘訣」を子どもたちに伝える指導を行いました。

宇佐美が示した答えは、「ゴールからの逆算」です。遠くのサイドネットそのものを狙うのではなく、サイドネットとボールを結んだライン上に意識を置き、

そのライン上の自分に近い位置に、頭の中で目印を作る。

そのポイントをボールが通るようになることで、自然と狙ったコースへシュートが向かう、という考え方を指導しました。

また田中からは、「ゴールや

キーパーの確認は一瞬で行い、

シュートを打つ瞬間はしっかりとボールを見ることが大切」というアドバイスが送られ、子どもたちはこの2点を意識しながらシュート練習に取り組みました。

本サッカースクールの特徴でもあるのですが、子どもたちの本気で取り組む姿勢も相まって、短時間の中でも成果や成長がはつきりと表れました。観覧している保護者からも驚きの声が上がるなど、子どもたち自身も確かな変化を感じできる時間となり、成長につながる有意義なトレーニングが続いていきました。



写真：重要なポイントを身振り手振りで指導する宇佐美



写真：練習中も一人一人の質問に耳を傾けアドバイスを送る宇佐美

トレーニングの最後には、より実戦に近い状況の中で、これまでに学んだシュートを活かすため、1対1のトレーニングを実施しました。小学生年代の子どもたちによく見られる課題として、相手を完全に抜き切ること自体が目的となってしまい、シュートコースが空いていてもシュートを選択しない場面が挙げられます。しかし、宇佐美や田中の実際のシュートシーンを見ても、相手を完全に抜き切つてからシュートを打つケースは決して多くありません。ドリブルやフェイントはあくまでシュートへつなげるための過程であり、シュートコースが空いた瞬間に打つことの重要性を、



写真：自らDF役を担い指導をする宇佐美

## 目的は常に シュートを打つ 「シュートチャンス」の概念を変える 本質を捉えた1vs1

宇佐美選手は強調して伝えました。この考え方を理解することで、子どもたちにとつての「シュートチャンス」の捉え方が広がり、これまで以上に多くの場面をチャンスとして認識できるようになります。

それによって、直前まで行ってきたシュートトレーニングの成果が活きてきます。

こうした意識を身につけてもらうため、代表経験を持つ両コーチが1対1のプレーを見守りながら、時にはDF役を担いながら、気になった時には一人ひとりを呼び止め、具体的なアドバイスを与え、丁寧な指導を行いました。

# 試合で成果を発揮！ 宇佐美・田中も参加した 実戦形式のトレーニング

練習試合



トレーニングの最後には、参加者を2チームに分けて練習試合を行いました。

宇佐美と田中もそれぞれのチームに加わり、「シュート」を強く意識するよう子どもたちを鼓舞。子どもたちも、これまでに学んだことを発揮しようと、普段以上にシュートへの意識を高め、積極的にゴールを狙う姿が印象的でした。真剣勝負の中にもサッカーを楽しむ笑顔があふれ、トレーニングの締めくくりにふさわしい、非常に充実した時間となりました。

# 将来みんなとプロの世界で



写真：子どもたちの質問に笑顔で答える宇佐美と田中

イベントの最後には、子どもたちからの質問に答える質疑応答の時間を設けました。宇佐美や田中に向けて、「緊張してシュートが決まらない時はどうしたらいいですか?」といった参加した子どもからの質問や、「子どもの時はどれくらい練習していましたか?」といった保護者からの質問まで、さまざまな質問が寄せられました。

宇佐美、田中は、一つひとつ丁寧に回答し、子どもたちや保護者の皆さんも、そのやり取りを通じて多くの学びを得る貴重な時間となりました。閉会式では、参加してくれた子どもたちと保護者の皆さんに感謝を伝えるとともに、全員との写真撮影やサインのプレゼントをし、子どもたちへエールを送りました。

今回、宇佐美や田中からトップレベルのプレーや考え方を学んだ子どもたちは、今後もプロを目指して練習を重ねてくれる 것입니다。

宇佐美は、そんな子どもたちと将来プロのピッチで再会できることを信じながら、子どもたちを見送りました。



写真：参加者全員と写真撮影をする宇佐美と田中

# ギャラリー ①



## ギャラリー ②



## ギャラリー ③



## ギャラリー ④



## ギャラリー ⑤



## ギャラリー ⑥

